

取扱いの趣旨

細菌薬剤感受性検査は、起因菌が分離同定された時点で、感染症治療に対する適切な抗菌薬の選択や投与量の決定、有効性を判断する目的で実施する検査であり、菌が検出できていないと判断される疑い傷病名に対する算定は、原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【検査】

《令和6年9月30日》

289 疑い傷病名に対する細菌薬剤感受性検査の算定について

○ 取扱い

疑い傷病名に対するD019 細菌薬剤感受性検査「1」1菌種、「2」2菌種又は「3」3菌種以上の算定は、原則として認められない。

○ 取扱いを作成した根拠等

細菌薬剤感受性検査は、起因菌が分離同定された時点で、感染症治療に対する適切な抗菌薬の選択や投与量の決定、有効性を判断する目的で実施する検査である。

疑い傷病名の場合は、起因菌が特定されていないことから、菌が検出できていないと判断され、本検査の対象とはならない。

以上のことから、疑い傷病名に対するD019 細菌薬剤感受性検査「1」1菌種、「2」2菌種又は「3」3菌種以上の算定は、原則として認められないと判断した。

グラフの見方

1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員等	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

審査結果の概要

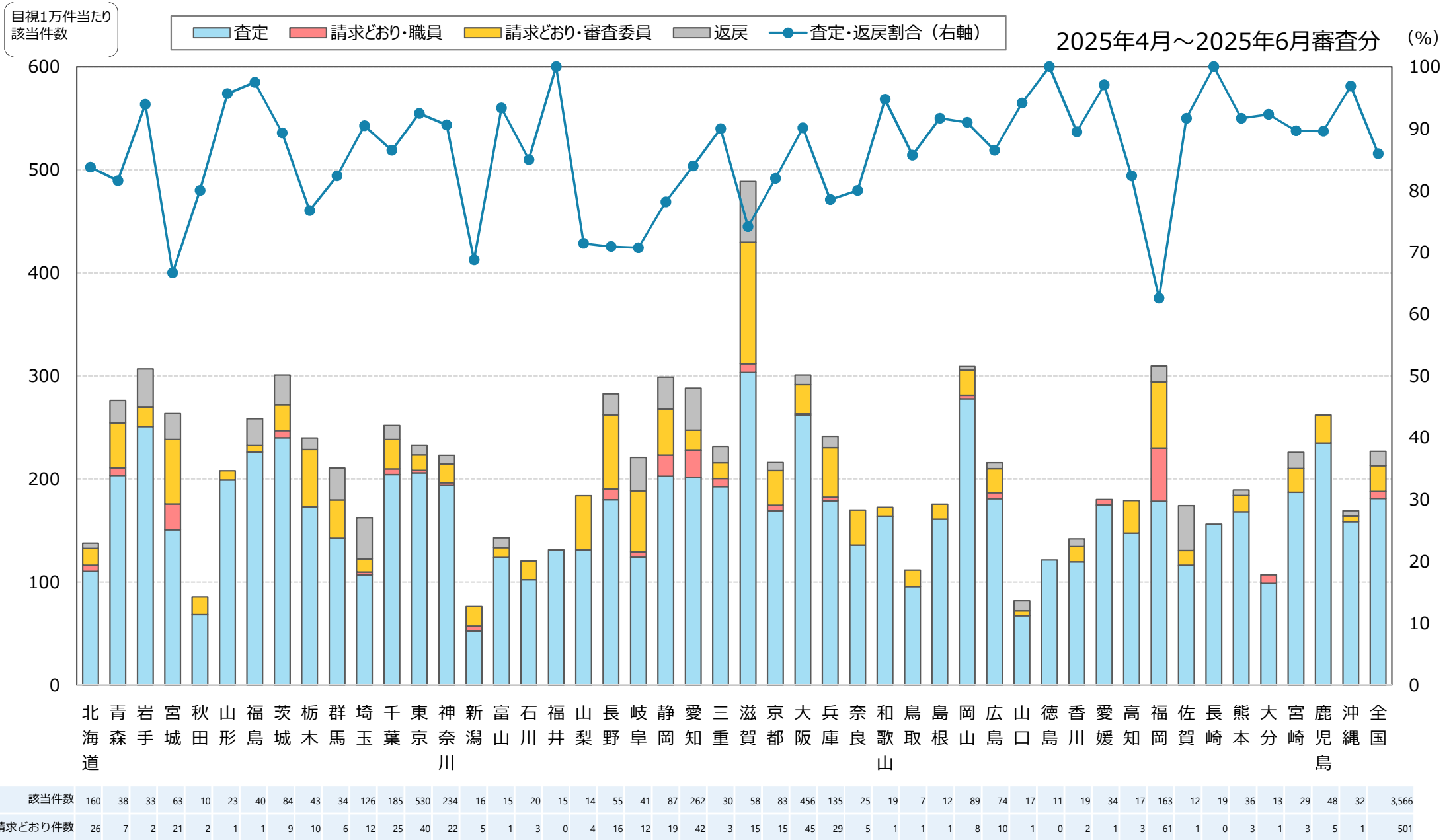
➤ 全国の査定・返戻割合 85.95%

➤ 検証対象都道府県 29

検証観点	都道府県※	備考
査定・返戻割合が低い	福岡、宮城、新潟、岐阜、長野、山梨、滋賀、栃木、静岡、兵庫、秋田、奈良、青森、京都、群馬、高知	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	福岡、愛知、宮城、静岡、長野、滋賀、三重、青森、茨城、北海道、広島、千葉、岐阜、京都、新潟、兵庫	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	滋賀、長野、福岡、宮城、岐阜、栃木、山梨、兵庫、静岡、青森、群馬、奈良、京都、高知、千葉、大阪	//

※検証対象都道府県が16を超えたため、16都道府県を限度に表記している

該当件数（全国）	【条件】	3,566件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	3,065件
検証を必要とする審査	請求どおり	501件



【該当件数】取扱いの趣旨に該当したレセプト件数